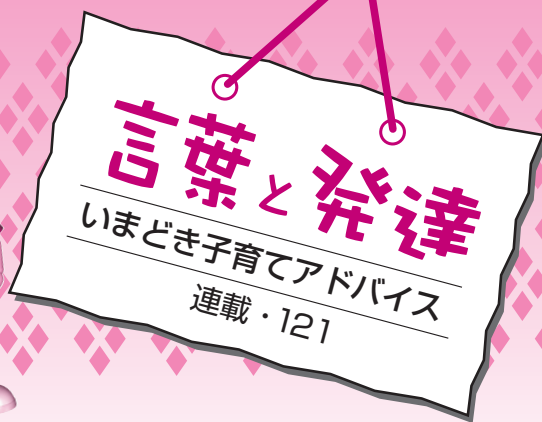




ことばを育てる 遊び方教室

その4



言語聴覚士 中川信子

さて、「ことばを育てる」と銘打った遊び方教室の紹介をしてきました。親御さんに「ただ集まって遊ぶだけ」と思われないように、遊ぶことにも意味があると伝えようとするST（言語聴覚士）ならではの工夫を感じていただけたでしょうか？

遊び方教室の 成果・結果

一回しか参加できない単発の教室なので、その後の変化をきちんと追うことまではできていません。ただ、当日の遊び方教室の参加者の中から、個別の「ことばの相談」への申し込みがぼつぼつあったり、また、健診後、保健師の側では気になっていたらけれどもフォローにつなげてくれた親子さんで、この教室に参加してくださった方へは、アンケートの提出をお願いするとか、教室の感想をおたずねするといった口

実(?)で、連絡を取りやすくなったり、実際に連絡を取ることでつながりができた例も少数ながら出てきています。

参加の親御さんにはアンケートをお願いしました。当日記入していただこうにも待てないお子さんが多いので、おうちで書いて郵送していただきます。

アンケートは次の通りです。具体的な意見が出やすいように設問が工夫されています。また、一回っきりの教室であるからこそ、そこでやったことをおうちでも引き続きやっていただきたいということはこの事業の大きなねらいです。押し付けがましくなく、さりげなく、おうちでの応用

●ことばを育てる遊び方教室アンケート●

本日は「ことばを育てる遊び方教室」へのご参加ありがとうございました。お母さんもお子さんとも楽しんでいただけましたか？
これからの「遊び方教室」に活かしていきたいと思いますので、アンケートにご協力をお願いします。(〇〇月末までにご返送ください)

1 プログラムはいかがでしたか？ それぞれあてはまるものに○をつけてください

- | | | | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|------------------------|----------|---|
| ①手遊び (どんぶらこ
とてもよかった
→その理由【 | ひげじいさん
よかった
普通
よくなかった | 頭肩ひざボン
普通
よくなかった | 糸巻き巻きなど) |] |
| ②からだ遊び その1
とてもよかった
→その理由【 | (新聞紙ボール投げ
よかった
普通
よくなかった | ドラえもんのお口にボン など) | |] |
| ③ビデオ
とてもよかった
→その理由【 | よかった
普通
よくなかった | | |] |
| ④からだ遊び その2
とてもよかった
→その理由【 | (積み木渡り
よかった
普通
よくなかった | トンネルくぐりなど) | |] |

2 「なるほど！」と思ったことはありましたか？ どんなことですか？

3 ご紹介した遊びで、おうちで楽しめたものは何ですか？

手遊び ・新聞紙ボール投げ ・ボールをボン ・リビングでの障害物競走
その他 (具体的に

4 もっと聞きたかったことはありましたか？ どんなことですか？

5 感想やご要望など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。〇月末までに同封の青い封筒で返信をお願いします。
ご紹介した遊びをぜひご自宅でもやってみてくださいね。ご質問やご相談がありましたら、遠慮なくお電話ください。

調布市健康推進課 電話 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

についてしっかり気づいてもらうような持つていきかたは、さすが、調布の保健師さんたちだ！ と感心したところでした。

アンケートの意見

アンケートで戻ってきた意見の概要を手直ししてご紹介します。

【プログラム・手遊びについて】

●言語聴覚士の方の話で、(手遊びなどが)意味のあることだとわかってよかったです。

●子ども家庭支援センターでやっていただいたのばっかりだったが、あらためて「またやろう」と思った。

●もっと突っ込んで知りたい。

【プログラム・からだ遊びについて】

●家で簡単にできる遊びを教えてもらってよかった。

●市販のおもちゃでなくても遊べるも

のが身の回りにあるんだということがわかり勉強になりました。

【「なるほど」と思ったこと】

●わらべうたや手遊びに感覚や脳を育てる効果があるという話。今まで子ども家庭支援センターなどではただやっていただけでしたので。

●「どんぶらこ」などの手遊びや、からだをいっぱい動かして遊ぶことが脳への刺激になるという話。

●子どもの好きな遊びを一緒にするという簡単なことがことばを育てるのだとわかりました。

【おうちで楽しめた遊びは？】

手遊び、新聞紙ボール投げなどを挙げた親御さんが多くみられました。

【感想や要望】

●今まで知らなかった遊びを教えてもらい家での遊びが広がりました。

●ことばの発達について知らないことがあり、勉強になりました。この教室

に行ってよかったです。

●遊び方は児童館などに通っているのが大丈夫でした。わが子のことばが遅いのか、心配しないでもいいレベルなのか、もう少し具体的なアドバイスが聞きたかった。

●手遊びだけでなく、全身を使って楽しめたことがよかったです。

●ことばが遅い子を対象にした継続的なサークルを作ってもらえたらと思います。

●など、遊びに意味があることがわかったという意見が多く、企画した甲斐があったと感じられました。

準備の際の 留意点いろいろ

1歳後半から2歳の子どもといえは、手を離すとどこへでもすっ飛んで行ってしまいうし、触ってほしくないものに限って触るし、紐がたれていたら引

張るし、すぐにおもちゃの取り合いになるのが当たり前だとわたしは思っています。だから、危ないものがないような、子どもを叱らないですむような場の設定・整理をしなくっちゃ、という観念がしみついていきます。

職業生活の最初からずっと障害のあるお子さんたちと接してきた習性なのだと思います。

そのため、通常発達のお子さんのおりこうさんぶりにびつくりします。昨日など、ある集まりで2歳を超えたばかりのお子さんが、先に遊んでいる子どもに「いーれーて」と言い、相手の子が「いーいーよ」と答え、頼んだほうの子が「ありがとー」と言っている場面を目撃し、とてもとても感動してしまいました。

「ことばを育てる遊び方教室」の対象は、「ことばの遅い」子です。ことばが未獲得であれば、ことばの機能である、

りたくなりますから。

4) 受け入れの用意

受け入れでつまずくと後までひきずりやすいので、準備万端整えます。

①名簿

②各自の荷物や上着を入れる脱衣かごなど

受け入れが終わったらかごは別室または見えないところに収納します。使用する部屋に作りつけのロッカー用棚があるときは、乱雑にならないように収納し、できればカーテンなどで目隠しします。

③おみやげ一式

当日は持って帰っていただくおみやげ一式を調布市の《健康づくり》クリアファイルにはさんで用意しました。中身は●手遊び歌手作り小冊子 ●「赤ちゃんのことば」シリーズの市販プリント（家族計画協会） ●アンケート用紙・返信用封筒 ●ことばの発達

「周囲の状況を理解する力、考える力」も「行動をコントロールする力」も未熟です。そのため、ことばでの制止が入りにくかったり、落ち着きがなかったり、人に慣れにくかったり、不安が強かったり、すぐ泣いたり、気持ちが切り替えにくかったり、ちよっとした刺激にすぐに反応してしまいがち。それをあらかじめ予想して準備しておくことが、教室成功のカギになります。ただでさえ不測の事態が起きる集団遊びですから、事前準備は極力精密にし、臨機応変の部分なるべく少なくしておく必要があります。

1) 部屋を見回し、刺激は最低限に

目から入る刺激は、子どもを落ち着かなくさせます。かわいい飾りつけをしたい気持ちは抑えて、壁も、床もなるべくシンプルに。床にマットを持ち込む場合は、なるべく無地のものを。壁の飾りははずすか無地の紙で隠しま

す。ドアの取っ手や、スイッチ類、水道の蛇口などはできる限り隠しましょう。

2) 位置決め

リーダーの位置はあらかじめ決めておく。なるべく無地の壁を背にする位置で。窓から入る明るい光は注意を散漫にしやすいので。

「ドラえもんのお口にポン」のボックスや、サーキットの玩具のセット位置は事前にリハーサルをして決めておきましょう。当日バタバタすると子どもたちの注意がそれて参加してくれず、親のモチベーションも充実感も下がります。

3) 音の確保

人間は一定以上の大きさの音でないと、注意を向けられないものです。親子さんが集まり、ひとりでも泣きだすと声が届きません。必ずマイクを用意します。マイクはなるべくならワイヤレスかピンマイクを。コードはひっぱ

をうながすために参考になる本の一覧

●調布市健康課のお知らせ などです。

④名札

白のカラーガムテープを8センチ程度に切ったものを3枚用意し、お土産一式を入れるファイルに貼り付けておきました。普通の茶色のガムテープでもいいようなのですが、それではいかにも「間に合わせ」。細部の「工夫」や「こだわり」や「思い」は必ず参加者に伝わりやすくし、主催者をも楽しくさせてくれると思います。3枚の内訳は◎親御さん用（胸に貼る）◎子ども用（胸に貼る。嫌がったり、気になつてむしりとうとする子は背中貼る）◎脱衣かごに貼るためです。

⑤遊具はそのつど出します

サーキットに使う大型積み木やマットなどは、使うまでしまっておきます。大型積み木は子どもに対して「僕に乗って!」と呼びかけ、ボールは「私を

投げて!」というメッセージを絶えず発している存在なのだと理解しましょう。もちろんマイクのコードが棚からたれていれば文句なく「僕をひっぱって!」との声が聞こえます。これを「アフオーダンス」といいます。

そういう環境からの呼びかけ（雑音）がなるべく少なくなるよう、部屋や計画をよくよく見回してみましょう。

ビデオをかけるために最初はしまつてあったビデオデッキの台を出したら、案の定、ひとりのお子さんがデッキのカバーの開閉ボタンを押しに何回も寄ってきます。やめさせよう、遠ざけようとするのとけぞって怒ります。ありあわせの無地の布で覆ったところ、近づいてこなくなりました。注意が向くようなものを提示してしまつたことをスタッフ一同、心の中であやまりました。よく考えたつもりでも、毎回、新しい弱点が必ず見えてくるものです。